

健康・快適な室内環境の創造を目指して

二科 妃里

東北文化学園大学 科学技術学部 建築環境学科

この度は、「薫風」への寄稿の機会を頂き、誠に有難うございます。拙劣な内容ではございますが、お読み頂ければ幸いです。

今回の薫風を執筆するにあたり、1998年に発刊されたVoL.1 No.1を読み直しました。この時の学会誌には、まだ薫風は掲載されていませんでしたが、「発刊の辞、分科会活動、原著論文、資料、会則」が掲載されており、当時の学会活動の様子を伺うことが出来ました。当時の活動からも、室内に生活することは、化学物質のみではなく生物的な汚染、物理的な汚染など複雑な影響を考えなければならぬと書いてありました。

現在の研究活動においてもそれらは同様であり、多様な視点を持ち、問題に対して解決方法を検討しなければならないと思っております。

さらに発刊から10年後の2008年は、私が本学会の学生会員になった頃で、学会活動に参加し始めたばかりでした。当時は、他大学の学生と交流する機会もあまり多くなかったと思います。そのため、室内環境学会での学生懇談会に参加した時は、他大学の学生がどのような研究活動を行っているのか、学生生活をどのように過ごしているかなど、様々な話を聞くことができ、自分の研究や学生生活に対して、とても刺激になったことを覚えています。また、現在の学生指導や研究活動等においてもどこかで繋がっていると感じております。

ところで、私は大学のオープンキャンパスに来た学生・保護者・教員等に研究活動の内容について説明することがあり、その時の内容を少々書かせて頂きます。「私たちは約90%を室内で過ごすと言われており、室内の温熱や空気質環境が人間の健康・快適性に大きく影響を与えるため、住まいの快適さはそこに住む人々の生活の質を大きく左右する大切な要件です。また、室内においては多数の空気汚染物質発生源が存在します。その広範囲の発生源を調査して、室内空気汚染問題の解決が図られています。そのため、空気清浄機等の汚染対策技術の研究開発も行われており、当研究室では、室内環境に関する

テーマを基に様々な研究を行っております。」という説明をすると多くの学生は、「え？90%も？もっと屋外にいる気がする」という反応をします。しかし、室内といっても、家だけではなく、乗り物なども含まれていますよと説明すると納得するようですが、室内環境を意識して生活する人はまだまだ少ないのかなと感じております。

しかし、私の子供時代に比べて、現在は室内空気汚染の対策製品が充実しており、身近に感じます。例えば、臭気等の対策製品ではないでしょうか。私たちの生活の質は、向上していることもあり、より室内環境を快適にしよう、自分の心地よい空間にするためにはと考えると、様々な商品を購入し、使用しています。

具体的な対策製品としては、空気清浄機や消臭剤ではないかと思えます。今では、家庭用空気清浄機は、住宅や病院はもちろん、美容室やネイルサロンなど様々な場所で使用されております。もう一方の消臭剤は、一般消費者が入手し易い価格体であり、かつ簡便に使用できるものとして、購入されています。これらの性能効果については、適切な使用方法が重要であり、その点も理解しながら使用しなければなりません。身近な対策方法として多くの場面で活用されています。このような身近な対策製品をきっかけに、多くの人々がより快適な室内空間を求めて、室内空気環境の研究活動に注目して頂きたいです。

最後になりましたが、研究活動を開始した2008年から早くも10年が経ち、現在2018年と平成最後の年となります。これまで、研究活動や学生生活を通じて、様々な経験をさせて頂きました。

これも大学時代からご指導頂いている野崎淳夫先生のお蔭であり、現在も室内空気汚染に関する研究に携わることができております。10年前の自分では想像もしていなかった大変貴重な経験をさせて頂き、誠に感謝しております。今後も健康・快適な室内環境の創造を目指し、鋭意努力して参りたいと思っております。学会会員の皆様におかれましても、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。